

冬物衣料に多い、中わたやダウンを使った製品、高密度織物を使用した製品などは、ドライ洗剤などの不揮発成分が洗濯物に残留することでシミが発生する事故が生じることがあります。今回は、ドライ洗剤などの残留によるシミ（際つき）について紹介します。



監修／クリーニング総合研究所

衣類の状態

表示を参照して石油系溶剤によるドライクリーニングを行ったところ、全体的にまだらに濃色になった。中でも縫い目部分などで濃色になっているのが目立つ。

縮されたことにより生じた現象。縫い目部分などは、乾燥が遅れるためにドライ溶剤が移動、集中しやすい。

シミに水をスプレーすると速やかに吸収して濡れた状態になることから、シミの成分がドライ洗剤を主体にしていることが推定できる。

原因 脱液後に残留していた洗浄液が乾燥の段階で縫い目部分に移動、集中し、ドライ洗剤を主体とする溶剤中の不揮発成分が濃

このような現象は、洗浄液が浸透しにくく、また浸透した洗浄液が抜けにくい性質をもつ樹脂コーティング製品や高密度織物製品などに発生しやすく、中わたや羽毛を使ったキルティン



縫い目部分などが、濃色になっているのが目立つ

グ製品は、洗浄液の残留量が多くなるためさらに発生しやすい。

事故の防止対策

ドライ洗剤の残留をなくすことが絶対条件となるが、石油系ドライクリーニングの場合には1浴循環式*のシステムが基本になっているため、ドライ洗剤をすすぎ出す工程を実際上とることができず、完全な防止は困難。適正な溶剤管理を行うことで、できる限りシミの発生を軽減することができる。主なポイントは次の通り。

能力不足、吸着性のない油性汚れの存在などにより、すべての汚れをフィルターで完全に捕捉することは不可能である。これらの汚れが溶剤中に蓄積することもシミの発生原因になる。

洗浄時間を適正に設定する

1浴フィルター循環による洗いを基本とする石油系ドライクリーニングでは、汚れがフィルターで完全に除去された時点で洗浄を完了するのが理想であり、洗浄時間は、フィルターで汚れが十分に除去されるよう考慮して設定する。

溶剤の酸価と着色状態を管理しながら常に清浄な状態を保つ

石油系ドライクリーニングでは、パウダーやろ紙等によるろ過と、活性炭や脱酸剤などでの吸着により溶剤を清浄化しているが、フィルター性能の低下や

脱液を十分に行い、汚れた洗浄液の残留量をできる限り少なくする

汚れや加工剤などが部分的に集中しないような乾燥方法を工夫する



光沢のある茶色のダウン

*1浴循環式…一つの槽内で、ベースタンクから同一の溶剤をフィルター循環させて洗浄する方式

- 品名…ダウンジャンパー
- 素材…表地：ポリエステル100%
中わた：ダウン、フェザー
- 取扱い絵表示…
- 処理方法…石油系溶剤によるドライクリーニング8分、タンブル乾燥